

令和3年度公益社団法人京都鴨沂会事業報告

令和3年度は、コロナ感染症の拡大によって京都府における緊急事態措置が、4月25日、8月20日の2回発令され、鴨沂会館の利用を休止することになった。高校教育振興事業と会誌発行以外の公益目的事業の実施が制限されたが、法人業務、公益目的事業、収益事業へのICT導入による新しい業務環境の整備が進み、万全の感染症防止対策「新しい生活様式」での公益目的事業を実施した。

I 公益目的事業

(公1) 高等学校教育を振興するための奨学金及び教育研究助成費

高等学校教育の振興と学力向上に寄与し、社会の発展に寄与する人材を育成し、わが国の教育振興に貢献することを目的として、次の事業を行う。

ア 奨学金(公募)

「京都鴨沂会奨学金」 月額 10,000円

勉強意欲がありながら、経済的理由により修学が困難な公立高等学校生徒に対して奨学金を給付する。

京都公立高校9校から19名(3年9名、2年10名)の応募があり、有識者で構成される選考委員会により慎重に審議し、7校13名(3年生6名、2年生7名)を選出し、理事会の議を経てこれらの生徒への奨学金給付を決定し、月額1万円の給付を実施した。

「大学進学支援金」 30,000円

勉強意欲がありながら経済的理由により大学への進学をためらう高校生に対して、大学への進学を支援する事業を新たに実施する。

令和三年度は、コロナ禍の最前線で奮闘される医師・看護師など医療従事者を目標として大学進学する生徒を対象として公募し、京都公立高校3校から5名の応募があり、選考委員会により慎重に審議し、理事会の議を経て応募者5名を決定し、支援金3万円を実施した。

イ 教育研究の支援(公募)

高校独自の教育特別事業として、①授業内容の向上をめざす研究、②教員の資質向上をめざす研究に対して必要資金の一部を1件10万円以内で、2件を限度として助成する。

「京都鴨沂会教育研究助成費」

令和3年度は、下記の2校の応募があり、選考委員会により慎重に審議し、理事会の議を経て2校に助成費の給付を実施した。

京都市立銅駝美術工芸高等学校 5万円

「iPadを活用したハイブリッドオンラインによる双方向型教育活動の実践」

京都府立鴨沂高等学校 10万円

「生徒の科学的リテラシーの自発的な育成を促す探究学習の開発」

(公2) 高齢者福祉及び国際相互理解の促進に資するための芸術・伝統文化講習会とボランティア活動

ア 芸術・伝統文化講習会の開催

高齢者福祉、留学生支援など地域活性化に資するボランティア活動のきっかけ作りと担い手の育成のための講習会を開催する。

「京都鴨沂会文化教室」

茶道教室 講師 吉田宗翠、 華道教室 講師 中谷豊甫

能楽教室 講師 惣明貞助、 香道教室 講師 早川光菜

紹ざし教室 講師 北村悠紀子、 ハワイアンフラ教室 講師 ユミコ レイモミ

文化教室は、科目によって、マイクロ飛沫や身体の密着度などが異なるので、それらを勘案しながら開講・休講の判断を講師と相談して決めた。その結果、科目ごとに年度を通して休講、状況に応じて数回開講、緊急事態宣言発出中以外は通常通り開講と科目によって異なる対応がとられた。

イ 地域活性化に資する自主的グループ活動の支援

学習効果を地域に還元する実践プログラムを自主的に創りあげる活動の側面的なサポートを行う。

令和3年度は、地域活性化グループ活動の自粛により、助成費への応募がなかった。

ウ 高齢者福祉ボランティア活動の推進

ボランティア活動の情報提供と実践のための福祉教育および福祉ボランティア活動のコーディネーションを行う事業である。令和3年度は、外部の人の受け入れを制限する高齢者福祉施設もあり、例年40件に及ぶ福祉施設、医療機関などへのボランティア要員の派遣と助成事業は自粛し実施されなかった

エ 留学生の伝統文化学習と生活適応のための支援活動

文化教室で培った伝統文化の知識と手技をコミュニケーションツールとして外国人留学生に対する日本伝文化の育成に寄与し、生活適応上の指導助言など留学生支援により国際理解を深め地域社会の活性化に貢献する事業である。

[高校留学生のための日本伝統文化体験学習会]

令和4年2月26日 於 鴨沂会館

茶道 裏千家 講師 吉田宗翠

「講師による薄茶点前の実演と呈茶及び留学生の盆略手間の実習」

華道 未生流笹岡 講師 中谷豊甫

「伝統文化を踏まえた生け花の実習」

書道 講師 中村美知生

「京都鴨沂会の素晴らしい取組みに敬意を！—基礎知識・基礎技術・作品制作」

令和3年度は、外国人留学生の出入国が制限されているため、日本滞在中のネパール、パキスタンから立命館宇治高校へ、マレーシア、フィリピンから立命館高校に留学している高校生4名、付き添い日本人大学生4名及びAFS日本協会京都支部から2名が参加して伝統文化学習会が行われた。副会長挨拶と留学生、講師その他の参加者の自己紹介の後、日本伝統文化についての講義と実習を行なった。実習終了後、留学生は伝統文化体験結果の発表と感想文の作成を行い、写真撮影をして閉会した。

(公3)生涯学習を支援するための公開講演

令和三年度教養講座はコロナ対策として集会及び施設利用の制限により開催できなかったため、鴨沂会誌158号に誌上開催として掲載した。

第52回 教養講座 稲垣 暢也 京都大学教授

「人生百年時代、健康寿命をいかに伸ばすか～メタボ予防からフレイル予防へのギアチェンジ～」

第53回 教養講座 村山 敦 公益社団法人日本工芸会近畿支部長

「伝統工芸の景勝と発展について」

第54回 教養講座 竹崎 陽子 元日本薬理学会誌編集者

「大先輩「井上 秀」先生—京都府立高等女学校 明治26年卒—」

(公4)文化芸術及び生涯学習支援等の情報提供

公益法人としての事業活動の一般への開示の目的に加えて、伝統文化芸術、環境、福祉に関する論文を有識者による編集委員会により編集し、文化芸術及び生涯学習支援のための情報提供とともに教育史、女性史の資料として文化振興に貢献する目的で以下の事業を行った。

ア 鴨沂会誌158号刊行

令和3年度刊行の鴨沂会誌158号には、教養講座の論文、高校奨学生の作文、伝統文化学習、ボランティア活動等本年度の公益目的事業の結果を掲載した。公益法人としての事業及び会計を公開するために、令和2年度事業報告、会務報告、収支決算、および令和3年度事業計画、予算を掲載している。

イ 会誌および史料の保存管理

明治20年以來の150冊を超える鴨沂会誌全巻とともに編集資料の保存管理を行なっている。

II 会報の刊行その他会員向け事業

ア 鴨沂会報第18号の刊行

法人活動及び会員の近況を会員へ報告する目的で会報を編集し、全会員に配布した。令和3年度は、リモートワークにより会報編集業務が行われ、ほぼ例年通り刊行した。

イ 会員総会の開催

第131回京都鴨沂会年会における会員総会は、感染症防止のため開催を自粛した。

III 収益事業

ホール、会議室及び駐車場の賃貸

鴨沂会館のホール及び会議室等は、オーケストラ、室内楽、コーラス、舞踏などの常設練習場、講演会、会議、伝統芸能の教室など文化施設として利用されている。また、利用者の便宜と安全のため駐車場を整備し一般の利用に供した。

「新型コロナウイルス感染症対策に伴う鴨沂会館の休館」

令和2年2月度に引きつづき新型コロナウイルス感染症防止対策として、施設の使用には“三密”を避け、手指消毒、体温チェックなどの感染防止対策を継続した。緊急事態宣言が出された4月25日から6月20日の期間は、理事会又は代表理事3名の合議により方策を決定、ホームページにて鴨沂会館利用の休止を知らせた。緊急事態宣言終了後の6月21日からは一時再開したが、8月22日から9月30日には再度緊急事態宣言が出され同様の措置をとった。10月からの緊急事態宣言の解除に伴い、感染症防止対策を講じて鴨沂会館の利用を再開した。令和4年に新型コロナウイルス感染症が再び拡大したが、会館の十分な感染症対策を実施し、利用者にも感染防止対応を求めて業務を継続した。